



なつのくも



本校ホームページ
携帯・スマホ用サイト
でもご覧ください。

第152号 (R4. 5. 2)

練馬区立光が丘夏の雲小学校

コミュニケーションの第一歩は…

校長 宮林 伸之

令和4年度が始まり1か月が経とうとしています。

4月からの1か月、光が丘夏の雲小で過ごして感じたことは…

子供たちは、明るく素直で優しい子が多い。

家庭・地域の皆様は、夏雲小の子供たち・教職員を大切にしてくださっている。

教職員は、労を惜しまず子供たちのために真面目にコツコツ取り組んでいる。



私は、教職員はじめ家庭・地域の皆様に大切に育てられている子供たちに、どのような教育を推進していけばよいのか、改めて学校の役割を考えました。学校の役割には、「教科の基礎的な学力」や「自ら学ぼうとする力」「人間関係を築く力」「集団の中の人間関係、公共心、規範やルールを学ぶ」などの資質や能力を身に付けることがあげられます。

そして、子供たちが、とても楽しそうに友達と意見交換をする姿や学級会で学級目標や係を決める姿、休み時間や掃除の時に声を掛け合っている姿…に触れ、学校の大きな役割の一つは、「コミュニケーション能力」の育成であると強く感じました。

文部科学省のコミュニケーション教育推進会議の報告書には、コミュニケーション能力の重要性について

「コミュニケーション能力を、いろいろな価値観や背景をもつ人々の集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、多文化共生時代の21世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要である。」と述べています。報告書にもあるようにコミュニケーション能力を育むためには、他者(いろいろな価値観や背景をもつ人々)との関わりが大切になるのです。

そこで、全校朝会で子供たちにイソップ寓話の一つ「北風と太陽」の話を通して次のような話をしました。

ある日のこと、北風と太陽が言い争いをしていました。「一番強いのは僕だ。」と… どちらも引きません。そこで、カビベをするために歩いている旅人の上着を脱がせたほうが勝ちということにしたのです。

北風は、上着を吹き飛ばそうと「ビュービュー」冷たい風を旅人に勢いよく吹き付けます。しかし、旅人は、寒さのあまりもう一枚着込んでしまいます。それでも吹き飛ばそうと、さらに冷たい風を…

一方、太陽は、ぼかぼかと暖かく、そして優しく照らします。すると旅人は、「ぼかぼかいい陽気になった」と上着を一枚脱いだのです。

この物語を通して人との接し方について考えてみると…北風のように強引に思いを伝えたり無理矢理従えようとしていたりすると相手は心を開きません。太陽のようにいつも相手の立場や思いに立って行動することで心をひらき分かち合えるのです。

今後、教育活動の中で子供たちは、「自分とは異なる他者を認識し理解する場面」や「集団の中で他者と協調、協働する場面」、「対話やディスカッション、身体表現等の活動を取り入れ、課題に取り組む活動」などに会います。その時に、お互いに「太陽のようにいつも相手の立場や思いに立って行動すること」がコミュニケーションを深める上で必要となると思っています。

教職員と子供たち・保護者との関わりも同じです。目指す学校像の1つ「笑顔かがやく夏雲小」の実現のために、教師は、「よく見る」「よく話を聞く」姿勢を保ち、子供に寄り添った指導をする。と経営計画に示しました。

私自身も、教職員・子供・保護者の皆様に寄り添い、「太陽」となっていけるように努力いたします。